

2016年2月17日

私たちに対する事実誤認とそれに対する考え方について

いつも、肉球新党「猫の生活が第一」に対するご理解とご支援、ありがとうございます。

この間の Twitter でのやり取りの中で、私たちの活動に対する大きな事実誤認が明らかになりました。残念ながら、当事者はその事実誤認を認めることなく Twitter をブロックし、そのツイートが修正されず今も残っていることから、今後ともその誤認を基にした誤解が広がる可能性が残されています。そこで、当該の事実関係を明確にしておく必要があるため、ここに明らかにさせていただきます。

1、経過の概要

- (1) 2016年2月12日、坂戸市で行われた社民党副党首 福島瑞穂 (@mizuhofukushima) 氏の講演会に参加した私たちの仲間が、福島氏に肉球新党「安倍ニモマケズ」のチラシを手渡し、福島氏が自身のアカウントからチラシの画像を Twitter に投稿しました。
- (2) これに対して、反差別統一戦線東京委員会 (@Anti_Discrimina) 氏は、「市民が求めているのは『肉球新党』みたいなオチャラケではないです。」「こいつら（引用者注：肉球新党のこと）夏の国会前にも現れて、ド詰めされてたアホ集団です。百害あって一利なし。」などとツイートしました。
- (3) これに対し、2月13日、肉球新党の公式アカウントから2回にわたって「肉球新党を「百害あって一利なし」とまで書くのであれば、その根拠を説明してください。また、私の知る限り、夏の国会前で『ド詰め』に相当するようなトラブルはありません。具体的な事例があるなら教えてください。」と問いましたが、一切の返答はなく、一方的に当アカウントをブロックしました。
- (4) 2月14日未明、私たちの別の仲間が、反差別統一戦線東京委員会 (@Anti_Discrimina) 氏と Twitter でコンタクトし、氏は以下の内容の説明をしました。「まず肉球新党なる名称が不真面目。国会前でも見ましたが、あの場所で『肉球新党』として団体名を自己主張する必要があるのでしょうか。『戦争法案反対』だけ主張すればよろしい。それは多くの労組が幟を遠慮するなど心がけていたことです。」「少なくとも私自身は『肉球新党』の幟をあげていた連中が、『主張と関係不明な団体名だけの幟はやめろ』と諭されているのを何回も見ましたよ。」「現実に国会前北岸に出ましたよ。ご自分たちのことなんだから、自分で確認してください。」これらの発言のあと、最終的にはブロックしました。

2、具体的な誤認内容について

- (1) 反差別統一戦線東京委員会 (@Anti_Discrimina) 氏は、国会前に肉球新党の幟があげられていて、それでトラブルになっていたような発言をしていますが、そもそも肉球新党には当ても現在も「幟」なるものは存在しません。氏は、存在しないものを見たと言っています。

もちろん、該当するトラブルは経験なく、相当するような報告也没有。また、肉球新党は、2015年8～9月は組織的な実態はなく、趣旨に賛同する個々の参加者が思い思いのプラカードを持参して国会前に参集していた時期です。

- (2) また、肉球新党のプラカードは、すべて、反安倍や原発反対などの主張を前面に押し出したものです。肉球新党「猫の生活が第一」は相対的に小さい表示であるとともに、動物愛護者の立場からの主張であることを明示する必要性から表記しています。

3、肉球新党「猫の生活が第一」の沿革について

肉球新党「猫の生活が第一」の出発点は、2011年3月の東日本大震災と福島第一原発事故で、悲惨な環境に取り残された動物たちの代弁として「吾輩は原発に反対である」のプラカード・横断幕を作成した個人の活動です。広く注目されたのは2015年の春頃で、映画監督の想田和弘氏などの紹介によって「安倍ニモマケズ」の横断幕の画像が数千のリツイートによって拡散しました。その後、「DAYS JAPAN」の2015年9月号では、文芸評論家の齊藤美奈子氏が「戦争法案に反対する市民の表現力がすごい！」の中で肉球新党の「安倍ニモマケズ」を「秀逸」として紹介するなど、多くの支持を集めました。

もともと肉球新党は、組織化を念頭に置いたものではありませんでしたが、Twitter上での交流や、集会などで同じプラカードをもった者同士が顔を合わせる中で、継続した活動への志向が生まれました。2015年10月以降、首都圏では有志が定期的に会議を持ちながら、「猫が幸せに暮らせる社会は、人にも優しい」という考え方を基本に、①戦争反対、②原発反対、③動物と共存できる社会を具体化するため、個々の考え方を尊重した活動を続けています。

4、今回の件についての私たちの見解

私たちのプラカード等に対する評価は、個々の考え方であり、好き嫌いも含めてそれは尊重されるべきです。しかし、今回問題になった「安倍ニモマケズ」は、名称を記載したデザインも含めてTwitterやFacebookなどで多くの支持を得るとともに、前述の通りに客観的な立場からも一定の評価を得ているもので、「オチャラケ」「不真面目」ではありません。

また、主観的な評価と事実誤認をもとに、具体的な根拠も示さず、「アホ集団」「百害あって一利なし」と断ずるのは、どう考えても行き過ぎであり、社会常識から考えても許されるものではありません。事実誤認に基づく話を流布した当事者は、真摯な姿勢で今回の件を再考するべきです。その上で、「百害あって一利なし」の安倍政権に対する幅広い「統一戦線」が構築されることを望むものです。

肉球新党「猫の生活が第一」

@cat_pad299